

## ノイエスだより

ノイエス朝日(朝日印刷工業株式会社)

群馬県前橋市元総社町七三-15

TEL 027-2555-3434

FAX 027-2555-3435

http://www.neues-asahi.jp

神奈川県立近代美術館鎌倉が今年一月末に展覧会活動に終止符を打ちました。二〇一六年度以降は葉山館と鎌倉別館で美術館活動を続けていくとの事。古本屋が軒並みあり、鎌倉の街を散策しながら話題性のある展覧会を次々に開催していたこの美術館が好きでした。

学生の頃から、そして社会人になっても何度となく通った想い出深い美術館です。企画者の意気込みが伝わってくるような勢いと、いつでも静かに鑑賞者を迎えてくれる雰囲気がとても好きでした。

葉山館は、逗子駅からバスに揺られ十五分程。群馬からではちよつと遠く感じられ、レストランも混んでいて美術館の受付スタッフに尋ねて地元の食堂に飛び込みました。葉山で焼魚定食。

自分の仕事として一年間の展覧会のスケジュールを見て、自問自答して、ああでもない、こうでもない……と考え、長年の経験からくる感覚的な判断と、未知の作家や作品への期待と、そして来廊していた多くの方々楽しんでいただけた事を願って企画していく……。規模は違っても先人達の企画者の勇気と、その意気込みが今でも自分の仕事に「元氣」を与えてくれます。恐れるな自信をもって毎日の仕事に向かつていけ……支えてくれるように感じます。

この先、美術館や文学館はどうなっていくのだろう……と思います。静かに鑑賞者を迎えてくれるような空気は存在するのでしょうか。人間らしいコミュニティが成立する重要性が叫ばれています。なぜか無機的な箱にならないように願うばかりです。

作品は人が作り、企画するのも人、そして鑑賞者も人。人間の感性は本質的には昔からさほど変わってはいないと感じます。喜怒哀楽がある限り、美術も文学も生き残るはず。ただ社会構造が全く変化していくなかで、大事な骨格をなしている部分が抜けてしまう危険性ははらんでいるように感じます。

何かを得たら何かを失う。失ってからでは遅すぎる。大事なものを簡単に捨て、失ったものの大きさを後で知っても取り返しはつかない現実が存在しています。

近所付き合いのようなコミュニティが少なくなり個室文化のような社会現象がおきています。それを修復するような活動も各地に広がっています。美術館や文学館が核となつて新しいコミュニティが出来ていくことを期待して、ノイエスも小さな核になるように仕事に向き合っていきたいと思えます。

(武藤)

## ノイエス朝日(展覧会)のご案内

## おし花といけ花の春の共演

会期 四月一日(金)～三日(日)

午前十時～午後五時(最終日は午後四時)

会場 ノイエス朝日

## 足立玉川 陶器・螺鈿・漆そして玉虫の羽

## ハイブリッド展 (企画)

会期 四月七日(木)～十三日(水)

午前十時～午後五時三十分(最終日は午後四時)

会場 ノイエス朝日 スペース1・2

## 樺澤健治作陶展

会期 四月二十二日(金)～二十八日(木)

午前十時三十分～午後七時(最終日は午後五時)

会場 ノイエス朝日

\*時間が通常とは異なりますので、ご注意ください。

四月は、展覧会会期中以外は休廊しています。

展示のお問合わせにつきましては、展覧会会期中にお電話下さい。なお、「おし花といけ花の春の共演」及び「樺澤健治作陶展」につきましては、案内状にある連絡先まで直接お問合わせ下さい。

ノイエス朝日(会期中) 午前九時～午後五時三十分  
電話 027-2555-3434

## 新刊のご案内

## 土とともに

## 志村ミサ子の作品たち

定価二五〇〇円十税

群馬県展やぐんま女流美術展、新作展などを中心に作品を発表してきた志村ミサ子さんの作品集が出版されました。

一九七一年「裸婦立像」の卒業制作から二〇一五年「蛙の親子」まで八十九点を網羅しています。

団体展では一〇五点位が観賞できますが、個展のように一人の作家の作品をまとめて観る機会はなかなかありません。

作品集は、作家の全体像が浮き彫りになり、長年の制作の流れや動きが見えてきます。誰もが一冊にまとめてみたいと思うものです。そこから、また新たな出発が始まります。

作家にとつても制作を続けてきた作品と向き合う良い機会にもなるものです。



「土とともに 志村ミサ子の作品たち」の頁をめくりながら志村さんの歩んできた道を作品一点一点を拝見しながら感銘を受けました。

ノイエス朝日の新刊コーナーに「丸尾康弘作品集」とならんで販売しています。

ノイエスの国道沿いの敷石の間からチューリップの葉が顔を出しました。

そろそろ春の準備です……と映画の予告編のように話しかけてきました。冬の寒さから解放されて肩の力も抜けてちよつとホッとする夕暮れ時。遠くから聞こえてくる列車の汽笛も懐かしく、タイムカプセルで一時代戻ったようです。ポストに入れるハガキの宛名の人の顔を夕焼雲に重ね合わせ、手の温かさをそつとハガキに込めました。

